

## 2017-2018年シーズン 冬タイヤの販売動向 販売本数は前年から1割増加

GfK ジャパン(東京:中野区)は、カー用品量販店、タイヤ専門店(メーカー系列を除く)、ガソリンスタンド、インターネットにおける2017-2018年シーズンの乗用車用冬タイヤ販売動向を発表した\*。

### 【概要】

- ・2017/2018年シーズン(2017年8月-2018年2月)の冬タイヤ販売は本数前年比11%増
- ・平均価格は前年同期から6%上昇し、金額前年比は17%増を記録

### 【2017/2018年シーズンの冬タイヤ販売は好調】

2017/18年シーズン(2017年8月-2018年2月)の冬タイヤ販売は本数前年比11%増と好調であった。すべての月で前年の販売本数を上回ったが、出荷価格引き上げに伴う小売価格の引き上げ直前の8月は同275%増(前年同月の3.75倍)と大きく伸長した(図1)。8月のタイヤ全体販売に占める冬タイヤ本数構成比は前シーズンでは2%であったが当シーズンでは7%へ拡大した。店頭POPなどを通して早期購入を訴求したことも後押しとなった。さらに、2017/18年シーズンは販売のピークの11月、12月も寒波の襲来と降雪により、本数前年比4%増、15%増と好調に推移した。また、2月も21%増と大きく伸長した。

2017/18年シーズンの冬タイヤの税抜き平均価格は、前述の価格引き上げ等により前年から6%上昇し9,800円となった。結果、冬タイヤの販売金額は前年比17%増を記録した。

### 【主要サイズで高価格帯製品の構成比拡大】

サイズ別販売本数構成比をみると、2017/18年シーズンの冬タイヤで最も販売本数が多かったサイズは155/65/14で、前年から2%ポイント拡大し16%を占めた。次いで195/65/15が12%、155/65/13が9%を占めた。これら上位3サイズの税抜き平均販売価格は、前年からそれぞれ5%、4%、3%上昇した。ただし、サイズの価格帯別販売本数構成比をみると、高価格帯が拡大する一方で、低価格帯も拡大していることが明らかになった(図2)。上述の通り全体的には価格が上昇しているが、低価格志向も根強くあることがうかがえた。

図1. 冬タイヤ 販売本数推移

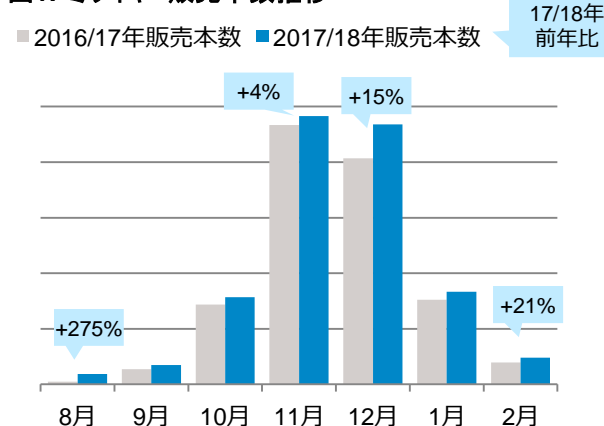
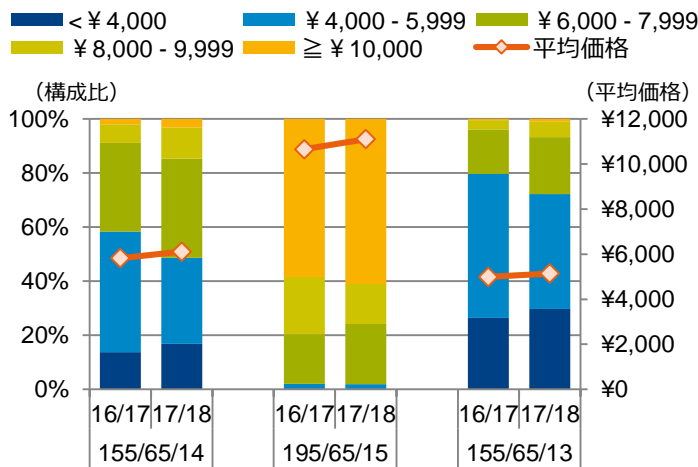


図2. 冬タイヤ主要サイズ 価格帯別本数構成比・平均価格



\*全国のカー用品店、タイヤ専門店(メーカー系列を除く)、ガソリンスタンド、インターネットの販売実績を元に市場規模相当に拡大推計

※本リリースに関するお問い合わせ先

GfK ジャパン  
広報グループ  
tel : 03-5350-4623 Email : info.jp@gfk.com